

新型コロナ IgG 抗体検査オプション（血液検査）

《当院で行う抗体検査について》

抗体検査で使用する試薬は、厚生労働省が実施する新型コロナウイルスの抗体検査と同じアボット社 研究用試薬を用いて測定を行います。

アボットの IgG 抗体検査試薬は、米国において米国食品医薬品局 (FDA) より緊急使用許可を、欧州連合より CE マークを取得し、広く使用されています。

《新型コロナウイルス IgG 抗体とは》

抗体とは、ウイルスなどの病原体が体内に入った時に、特異的に反応する物質です。抗体が作られ、外から侵入した病原体を攻撃する仕組みを「免疫」といいます。予防接種でワクチンを行う目的は、ワクチンによって体内に抗体を作り身体を守るための免疫を作ることにあります。抗体の中で、感染症の診療に必要なのは2種類で、それは IgM と IgG という抗体です。IgM 抗体は病原体が侵入した後に最初に作られ陽性となる抗体で、IgG 抗体は発症からしばらく経過してから陽性になります。

新型コロナウイルス感染症においては、現時点では IgM 抗体および IgG 抗体はいずれも発症早期には陽性とならない可能性が高く、発症早期の患者さんの診断に用いることは推奨されていません。IgM 抗体については偽陽性も少なくないため、IgM 抗体陽性のみでは新型コロナウイルス感染症を確定診断することはできません。一方で、発症から時間が経過した方では IgG 抗体の陽性率が非常に高いため、既感染（かかったことがある）の確認には有用であると考えられています。

《IgG 抗体検査の目的について》

新型コロナウイルス感染症は、感染していても自覚症状がなく、かかったことに気づかない軽症例が過半数を占めているといわれています。つまり、PCR 検査による確定診断に至った感染者数よりも、実際の感染者数は多いのではないかと推測されています。（発表されている感染者数の数十倍の方が実際には新型コロナウイルスに感染しているのではないかと考えられています。）IgG 抗体検査を行う目的は、気がつかないうちに新型コロナウイルスに罹患した（かかったことがある）かどうかを調べるための検査であり、健康診断的な意義があります。

欧州では、抗体検査で新型コロナウイルスにかかった人々を特定して、「証明書（Immunity Passport）」を発行し、社会復帰を促すことも検討しています。しかし、

- ① 「既感染者」が「免疫獲得者」であるか現時点では不明であること
 - ② 抗体が陽性であっても再感染を否定できないこと
- 等が指摘されており、課題も多くあります。

《こんな方が対象となります》

- ① 今まで自覚症状はないものの、過去に新型コロナウイルス感染があったか心配な方
- ② 過去に風邪症状があったが現在は改善していて、それが新型コロナウイルス感染だったか心配な方
- ③ 会社出勤や学校再開に向けて、自身に新型コロナウイルスの抗体があるか確認したい方

《検査結果について》

検査結果は、+（陽性）・-（陰性）および抗体価（数値）の両方を表示します。

《検査結果の解釈について》

- ① 新型コロナウイルス IgG 抗体 +（陽性） Index：1.40 以上
新型コロナウイルスに罹患済み（既感染）の可能性が高いです。
ただし、抗体陽性でも新たにまた感染する可能性については不明です。
- ② 新型コロナウイルス IgG 抗体 -（陰性） Index：1.40 未満
新型コロナウイルスに対する免疫（抵抗力）がないと考えられます。
また、感染直後は陰性となるため、現在の感染を否定するものではありません。

※IgG 抗体検査は、新型コロナウイルス感染症に罹患済み（かかったことがある）かどうかを調べる検査であり、現在罹患しているかどうかを調べる検査ではありません。

（当院でPCR検査は行っておりません。）

※現在検査の精度や判断の仕方については、十分なデータは得られていません。

今後、情報が増えるにしたがって、この内容が変更になる可能性があります。

※オプション検査でのみ検査可能です。

単独での抗体検査をご希望の方は土屋記念クリニックへお問い合わせください。

<https://tsuchiya-kinen-clinic.com/>